



# 「蒲郡市地域福祉計画」を

～がまごおりの福祉は、

ひと昔前には当たり前のようにあったご近所付き合い。

近年では、この古き良き習慣が忘れ去られつつあります。

そこで、市では、“ともに支え合い、助け合う地域”を取り戻すため「地域福祉計画」の策定を進めています。今号では、その計画の素案ができましたので、策定までの経過とともに、計画の一部をお知らせします。

## 素案ができあがるまでの経過

この計画の素案は、市民や福祉に関係する団体などを対象に、調査や話し合いを実施し、市民の意見や地域の実態を把握しながら作り上げました。

### 市民の意見

#### 平成21年度 市民アンケート調査

18歳以上の市民2,000人のうち、967人から回答を得て、地域活動やボランティア活動などの参加の状況や今後の意向を把握しました。

### 関係団体などの意見

#### 平成21年度 関係団体等アンケート調査 およびインタビュー調査

福祉関係団体や小中学校のうち、アンケートは67団体から回答を得て、インタビューは20団体を対象に、地域福祉の推進のための課題を把握しました。

### 各地域の実態

#### 平成22年度 住民懇談会

7つの中学校区で順次開催し、合計で430人の参加を得て、災害時要援護者支援（地震などのときに、逃げるための助けなどを必要とする方への支援）についての地域の現状を把握するとともに、支援体制について意見交換を行いました。

## 蒲郡市地域福祉計画素案

### 住民懇談会の参加者の声

◇いずれの校区においても、いろんな住民（子ども、若者、障がいのある人、ひとり暮らし高齢者）が出てくる地域の集まりが不足している。

◇今回の住民懇談会に対しては、中学校区よりも小さな範囲で話し合いの場を設けるべき。

◇災害時要援護者支援（地震などのときに、逃げるための助けなどを必要とする方への支援）の体制をつくることにおいては、自主防災組織を中心とする地域の体制づくりへの期待がある一方、行政が支援体制の骨格を示すべき。

